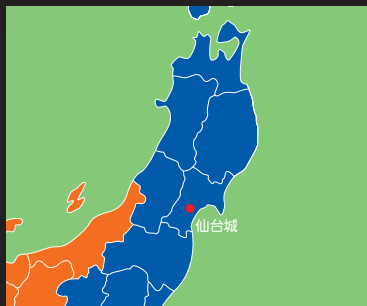


もくじ

北海道	かきざきのぶひろ 蠣崎信広	8
青森県	つがるためのぶ 津軽為信	10
岩手県	なんぶのぶなお 南部信直	12
秋田県	あんどちかすえ 安東愛季	14
山形県	もがみよしあき 最上義光	16
宮城県	だてまさむね 伊達政宗	18
福島県	あしなもりうじ 蘆名盛氏	20
	えみし 「蝦夷」がいた土地	22

茨城県	さたけよししげ 佐竹義重	24
群馬県	うえすぎのりまさ 上杉憲政	26
栃木県	うつのみやくにつな 宇都宮国綱	28
埼玉県	かいひめ 甲斐姫	30
千葉県	さとみよしたか 里見義堯	32
東京都	おおたどうかん 太田道灌	34
神奈川県	ほうじょうそううん 北条早雲	36
	おだわらせ 小田原攻めが意味するもの	38



だ て まさ むね 伊達政宗

宮城県



せんだいじょう
仙台城

りょう ち どく がん りゅう 東北最大の領地をほこる独眼竜

だ て てるむね 伊達輝宗の長男に生まれた政宗は、「梵天丸」と呼ばれた幼いころ、疱瘡(天然痘)という病気で右目が不自由となり、「独眼竜」と呼ばれるようになります。

めごひめ けっこん あと つ 愛姫と結婚して跡を継ぎますが、お父さんが殺されたため、とむらい合戦の延長で、人取橋、摺上原の戦いで、佐竹氏や蘆名氏らを討って、現在の宮城県、福島県の大半、山形県米沢市におよぶ領地をもつようになりました。

お だ わら ぜ 小田原攻めに来ていた豊臣秀吉のもとに参陣しようと思いますが、最上義光の妹でもある、お母さんの義姫に殺されかけます(→16頁コラム)。

ひでよし くだ あい づ ぼっしゅう おおさき か さいりょう りょう ち 秀吉に下ると会津などを没収され、大崎・葛西両氏の領地だったところをあたえられて岩出山城(大崎市)に移りました。

せんだいじょう うつ とくがわいやす 仙台城(仙台市)に移ったのは、徳川家康ひきいる東軍に味方した関ヶ原の戦い後のこと。

江戸時代になって、南蛮貿易をめざして支倉常長らをスペイン、ローマに派遣します。しかし、幕府がキリシタンを禁止したため目的を達することはできませんでした。

また北上川下流の土木工事をおこなうことで、旧大崎・葛西氏の米作を増やし、北上川を舟で下って石巻に運び、江戸などへ米をまわして売り、仙台藩の増収に成功します。

かた くら こ じゅう ろう どく がん りゅう 片倉小十郎と独眼竜

ほうそう どく 疱瘡の毒が目集まって右の目がつぶれてみにくい姿になったので、まだ梵天丸だった政宗は身のまわりの世話をしてくれている者たちに「刀で突きつぶしてくれ」とたのみます。でもみな動かさずしません。そんななか片倉小十郎(景綱)だけが小刀をにぎったというエピソードが残っています。

それまで右目のせいでひっこみじあだった政宗は眼帯をして「独眼竜」となり、自信をとりもどすきっかけになったのです。

こ じゅう ろう まさむね 小十郎は、どんな戦のときにも政宗のそばにありました。小田原攻めのときも参陣するように助言。政宗がお母さんに毒を盛られて参陣が遅れたため、死を覚悟し、ともに白装束姿で秀吉の前に出たのです。

せき が はら 関ヶ原の戦いのあと、小十郎は白石城(白石市。1万3000石)の城主になっています。1万石以上ですから、もし伊達家ではたらいていなかったら、小さな藩の藩主クラスだったことになります。



小田原攻めが意味するもの

とういつ そう
天下統一の総仕上げ

おだのぶなが　　てが　　とういつ　　つ　　とよとみひでよし
織田信長が手掛けた天下統一という大事業を継いだのは豊臣秀吉でした。

中国攻めの大詰めで本能寺の変が起きます。中国地方を支配していた毛利氏と仲直りした秀吉は、明智光秀を滅ぼすと、四国攻めをして長宗我部氏を、さらに九州攻めをして島津氏を降参させます。

3人とも、いざとなったら秀吉^{ひでよし}のために協力するという関係になったのです。

残すは関東と東北と北海道です。

関東には北条^{ほうじょう}氏がいて、東北には伊達^{だて}氏がいます。彼ら^{かれ}を降参^{こうさん}させないことには、天下^{てんか}統一^{とういつ}をしたことになりません。

ほうじょう
関東の北条氏

戦国時代に関東一円をおさめ、多くの武将と戦をくりひろげた北条氏は、鎌倉幕府で執権をつとめた、静岡県出身の北条氏と区別するために「後北条氏」とも呼ばれています。

その初代は北条早雲(→36頁)です。

神奈川県のおだわらじょう小田原城に住む北条氏は、静岡県いまがわのたけだ武田氏、さらに関東各県のぶじょう武将たちと、けんかをしたり、仲直りをしたりしながら、自分のりょうち領地を守り、領地を広げた結果、関東をほぼおさめるまでになります。



1570年頃の主な戦国武将勢力図

東北には伊達^{だて}氏^{うぢ}がいますから、境目^{さかいめ}となる茨城県、栃木県、群馬県などでは戦^ふが増えることになりました。

ひでよし せ 秀吉の攻め方

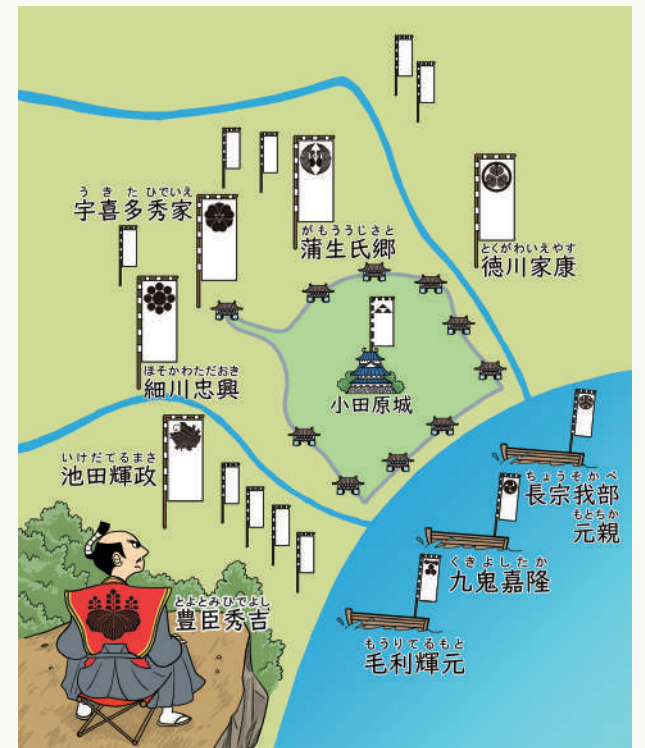
秀吉は北条氏に手紙を出します。

「天下統一^{とういつ}はまちがだ。だから抵抗^{ていこう}してもムダだ。わたしの言うことを聞きなさい。京都まであいさつに来なさい」

でも、北条氏ほうじょうがあいさつにひでよし来ないものだから、秀吉はおだわらじょう大軍をほういひきいて小田原城を包囲しました。

だ て まさむね
これを見て、伊達政宗は、あわ
てて小田原にやってきます。頭を
さいていげん りょう ち
下げるかわりに、最低限の領地
かく ほ
を確保することができました。も
ていこう
し抵抗すれば大軍が東北に攻
め入ってくるとわかっていたので
す。しかし ほうじょう お だ わらじょう
北条氏は小田原城に
ていこう
立てこもって抵抗します。

なんと う ふう なく
 もともと「難攻不落」とされる
 しやう う えす ぎけん しん じん
 城で、かつて上杉謙信も落とすこ
 とができませんでした。それでも
 ひでよし ほうじよう
 秀吉は、北条氏がおさめている
 しやう
 関東各地の城を落としていき、
 お だ わらじよう
 小田原城をほぼひとりぼっちにさ
 せ、およそ100日間囲んだすえに
 こうさん よ
 降参を呼びかけます。



小田原攻めの布陣図

いえやす 家康が関東に入る

この小田原攻めによって、秀吉は関東だけでなく、東北まで、事実上、おさめることになり、天下統一を果たすのです。北海道については蠣崎信広(→8頁)の子孫におさめることを許していました。

ほうじょう りょうち うしな とくがわいえやす
 北条氏は関東の領地をすべて失い、かわりにおさめるようになったのが徳川家康です。
 いえやす え とうじょう
 このときから家康は、江戸城を中心とする街づくりをはじめることになります。